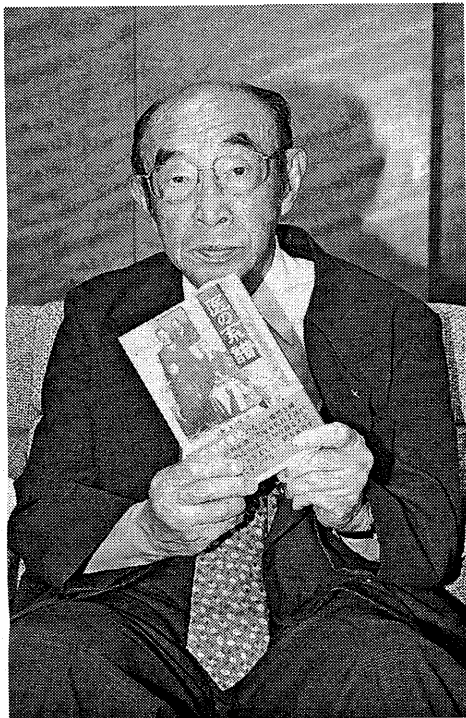


医者は患者のために働く

# 洪庵(岡山市身)の精神世に

備中足守藩(現・岡山市足守)出身で、幕末の大坂に適塾を開いて多くの人材を育てた蘭方医・緒方洪庵(1810～63年)から5代目の子孫で整形外科医の

惟之さん(82)＝奈良市学園大和町＝が、洪庵から自身まで5代続いた医師の家系を紹介した「医の系譜～緒方家五代」を出版した。(小林貴之)



惟之さんは、洪庵の

二男で明治天皇の侍医を務めた惟準のひ孫。

三代目銚次郎は病院を経営、四代目準一は奈良県立医大の設立に尽力した。昨年引退した

惟之さんは、洪庵から医学の道を継いだ先祖

## 子孫の

## 惟之さん(奈良)

にスポットを当て、銚次郎の自叙伝など緒方家に残る資料を頼りに生きざまをつづった。

惟準は一八六九年に京都で暴漢に襲われた陸軍の創始者大村益次郎に応急治療を施したこと、洪庵の教えに従

# 「緒方家五代」を出版

い子や孫に漢学を徹底的に学ばせたことなどを紹介。銚次郎については自叙伝を惟之さんが平易な文章に書き換えて掲載した。準一は同大学長を長く務めたが退官後は俳句に打ち込む日々を送ったという。

自身は幼少期からの思い出を振り返り、医学界に対し「医者は患者のために働くのであって自己の営利のためではない」と説いた洪庵の「扶氏医戒之略」の精神に立ち返る必要があると訴えた。

惟之さんは「医学関係者にぜひ読んでほしい、洪庵の精神を受け継いでほしい」と話している。A5判、二百十

緒方家5代の人物像をまとめた「医の系譜～緒方家五代」を出版した惟之さん

び、千六百円。問い合わせは燃焼社(06-6771-6222)。